

プロの技を教える 竹垣づくりと 棕櫚の葉でバッタをつくる



日本で一番大きな庭師のプロ集団

ジャパン庭園マイスターズ「日本造園組合連合会」が

竹垣造りの技を皆様にご披露します。竹垣の中でも基本の竹垣「四つ目垣」のコツをお教えます。

さらに、竹の穂を使って庭掃除に欠かせない小ぼうきの作り方もお教えます。

そしてお子さんに人気の棕櫚の葉を使って、バッタも作ります。

竹垣 「四つ目垣」

日本庭園の伝統技法である竹垣は桃山時代の頃に庭園に取り入れられてきました。種類が多い竹垣の中でも四つ目垣は、最も簡素で向こう側が透けて見える透かし垣の基本です。茶庭の内露地と外露地の仕切りに使われ、竹垣の中でも一般的な垣根です。竹垣の基本のコツをお教えます。

出演者の横顔

親方 野村 脩

東京都品川区で江戸時代安政3年から続く松屋植仁の五代目。

この道38年、石造品に造詣深く、雑木の庭や竹垣を得意とし、技能オリンピックの審査員でもあります。



棕櫚バッタづくりの
高橋 善和 先生

今年は大阪府花の文化園、東京都の昭和記念公園、みなとみらいのパシフィコ横浜などで子供たちに棕櫚バッタづくりを実演しました。



大阪府と奈良県の
青年部の皆さん

四つ目垣と棕櫚バッタをつくります。

皆さんも棕櫚縄の結束方法を学んで見ませんか。

棕櫚縄(しゅろなわ)の結束に挑戦

四つ目垣の結束をいぼ結びといい、垣根の結束の基本です。荷造りなどにも応用できますので、皆さんチャレンジしてみませんか。

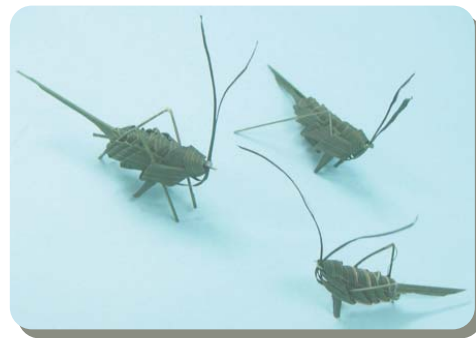
竹穂で小ぼうきを作る

庭師の仕事は掃除に始まり、掃除に終わるといわれます。その掃除道具の中でも庭師が使う小ぼうきを、竹の穂を使って手作ります。

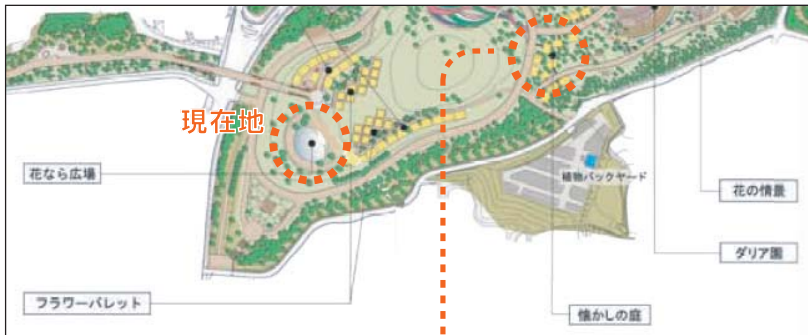
シュロバッタ教室
剪定して捨てるだけではもったいない。安全、簡単。リアルなバッタをつくってみよう。



この葉っぱ、
お家の庭に
ありませんか？



最後にお花をプレゼントします



全国都市緑化ならフェア会場地図（一部）



出展庭園 **懐かしの庭**部門 **せせらぎの里に聞く 秋の詩**
金賞受賞

懐かしの庭はこんな庭！

リンドウ キキョウ シュウメイギク
カキやスダチの実りの秋
庭園には赤とんぼや蝶、キリギリスもやってきます

庭の風景一つ一つに私たちの技が生かされています

庭師の技

植栽はまず生育環境づくりから

土には全体に竹炭を混ぜました。竹炭には土壌に酸素を供給し、通気、水はけ、保水性をよくする働きがあります。さらにミネラルの補給と同時に微生物も増殖させ木の発根を促します。

庭師の技

表と裏を見極めて木を植える

同じ種類の木でも木の姿にはそれぞれ個性があります。木を植えるときは、その場で木を回して向きを検討します。どの方向に向ければ最も見栄えがし、庭の形式としていかせるか十分に考えるのです。このような木の植え方をするのは世界中でも日本の庭師だけでしょう。

庭師の技

さざれ石の延段に目地の美しさを表現

延段は京都産の「さざれ石」を使った、あられをまき散らしたような「あられこぼし」という手法。さざれ石は雨水などで石灰石が溶解し小石を凝結させて長い歳月をかけて徐々に大きくなった石です。

庭師の技

石により緩急自在な流れを表現

水鉢からあふれた水が一筋の流れをつくります。流れのなかに、そして岸辺に配られた大小の石によって導かれ水はいきいきとした表情をみせます。上流は渓谷のような軽やかな流れ、瀬落とし（小滝）を経て、中流、下流に行くに従って徐々にゆったりとした流れへと変化します。

